

学習プログラム開発をしよう

(A) グループ メンバー (三浦さん, 松本さん, 角田さん, 須貝さん, 平野さん)

テーマ **青少年教育**

市の概要
C

個人の要望

- 居場所づくり (子どもの遊べる場
ボランティアをしたい。
スポーツ, 音楽をしたい。)
- 子育て (子育て環境の整備, 自然体験)
- 情報提供 (地域の制度や文化を知りたい)

社会の要請

- 地域のつながり (青少年の育成につながる)
- 生きる力, 豊かな人間性を育む。(子育て)
- 地域の安全 (安全, 安心を守る地域づくり)

地域課題

地域のつながりが希薄であるため、青少年の居場所がない。

学習目的

地域のつながりの希薄化の問題について、人々がかかわる場所・環境を整え、青少年が安心できるネットワークを形成する意識を高める。

学習目標

- 学校・家庭・地域が連携することによって、青少年が自主的に地域の安全について考える態度を養う。
- 青少年が地域の人々と楽しく関わる事ができる場や、イベントを通して、地域活動の楽しさを実感する。

【学習プログラムを開発しよう！】

(A) グループ メンバー (三浦、松本、角田、須貝、平野、柳原)

1 学習目的

地域のつながりの希薄化を人々がかかわる場所・環境を整え、
青少年が安心できるネットワークを形成する意識を高める。

2 学習目標

。学校家庭・地域が連携することによって、青少年が自主的に地域の安全について考える態度を養う。
。青少年が地域の人々と楽しく関わることのできるイベントや場を通して地域活動の楽しさを
実感する。

3 プログラム名

つくろう！わたしのまちの防犯マップ

4 対象・定員

対象：小学生 定員：30人 (5人×6グループ) ボランティアが1グループ1人リーダーとして参加
(小3～小6)

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

保険料 300円 (初回時に徴収) ※ 模造紙といった材料費は地区の今後の活用を考慮し参加者負担ではなく
バレット市が負担する。

6 事前に必要な知識や準備物

参加者 (小学生) 。タオル。飲み物。帽子。筆記用具	ボランティア 。タオル。飲み物。帽子。筆記用具 。携帯電話 (本部、病院への連絡のため)	主催者側 。バインダー。地図 (グループへ1枚ずつ) 。模造紙。ビデオカメラ。ペン 。カメラ (1～3回時に使用)
-------------------------------	--	--

7 留意点

。近隣の病院の位置を確認し、連絡がとれるようにしておく。
。駆け込み110番の家やコンビニ、外灯の有無といった地域の防犯情報と主催者は事前に調べておく。
主催者は得た情報をボランティアにきちんと伝えること。
。作成したマップを今日の事業に留まらず、家庭・学校・地域で共有できるようにしておく。

(A) グループ

※ 青少年ボランティアの方には事前に集まっていたら
主旨説明、準備を行う。

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
第1回 5月(土) 10:00 ~12:00	防犯について 知ろう。	◎ 防犯について知り、防犯マップの作成の しかたを理解する。 ① あいさつ オリエンテーション(自己紹介、ボランティア紹介 講師紹介 アイスブレイク) ② 主旨説明(劇やクイズもソングも) ③ 次回の説明、準備(ルート確認 分担決め) ④ アンケート ※ 終了時にスタンプカードを渡し、スタンプを 押し、ぬめりをプレゼント。(第2回以降も同様)	警察の方 地域の方々 (防犯組合の方 青少年ボランティア等) 募る方法 ・大学生サークルに依頼 ・パレト生進学習センター ・パレト活動の活用 (チラシの配布等)	公民館 前年度までの参加者	アンケート
第2回 5月(土) 10:00 ~12:00	まちあるきをして 危ない所を見つけ よう。	◎ まちあるきを通して、地域の犯罪の 起ころや危険な場所を調べる。 ① まちあるき方法確認 ② まちあるきを行う。(子ども110番の家で ウォークラリーのクイズ を行う。景観あり ヒントもあり。 地域住民の方に 協力していただく。 ③ 次回の説明 ④ アンケート ※雨天決行	地域の方々 (防犯組合の方 青少年ボランティア等) 防犯マップ作成 時に使えるシール	公民館エリヤ (6つに分けて 1グループ1カ所) 集合、解散は 公民館	アンケート
第3回 5月(日) 9:00 ~12:00	防犯マップを 作成しよう。	◎ 防犯マップを作成する。 ① 防犯マップの作成のしかたを確認する。 ② 防犯マップを作成する。 ③ 次回の説明 ④ アンケート	地域の方々 (防犯組合の方 青少年ボランティア等)	公民館	アンケート
第4回 6月(土) 10:00 ~12:00	防犯マップ 発表会をしよう。	◎ 地域の方々へ作成した防犯マップ を紹介し、発表を行う。 ① 発表方法確認 ② 発表 ③ ふりかえり、アンケート 皆勤賞のプレゼント	警察の方 地域の方々 (防犯組合の方 青少年ボランティア等)	公民館	アンケート

次の日

※ 活動後は、学校、公民館に巡回展示、公民館まつりで展示

2011年6月10日

6 実施計画

時刻	内容	留意点	
9:00	ボランティア事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年ボランティアの方には事前に集まっていたでいて主旨説明, 準備を行う。 ・案内板, 長机(1), 名簿(グループごと), 名札 ・あいさつは館長が行う。 ・マイク。 	
9:30	受付開始		
10:00	あいさつ		
10:05	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・講師紹介, ボランティア紹介をする。 ・グループの中で自己紹介をする。 ・アイスブレイクを行い, グループ内の親睦を深める。 		
10:30	防犯教室 <ul style="list-style-type: none"> ・警察の方による劇により防犯について学ぶ。 ・地域の方々によるクイズにより, グループで防犯について考える。 		
11:00	休けい		
11:05	次回に向けての説明, 準備 <ul style="list-style-type: none"> ・防犯マップの作成方法を知る。 ・グループ内での役割分担を決める。 ・まちあるきのルートを決める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担記入用紙 ・地図
11:50	ふりかえり, アンケート記入, スタンプカード配布, 押印		
11:55	あいさつ		

学習プログラム開発をしよう

(B) グループ メンバー (廣目, 有村, 吉岡, 先矢, 渡邊, 菊野)

テーマ

青少年教育

市の概要

B

個人の要望

- ・ 居場所 交通
- ・ 期待
- ・ 子育て
- ・ 健康

社会の要請

- ・ ハードの充実
- ・ 活動 (ボランティア, 地域)
- ・ 地域の活性化
- ・ 子育て 連携
- ・ 防災

地域課題

- ・ 人間関係が希薄で、子どもが安心して過ごせる環境がない。

学習目的

- ・ 子どもが楽しく、保護者が安心してできる地域づくり

学習目標

- ・ 子どもが地域を知り活動を通じて、住民同士に交流が生まれる。
- ・ 子どもが地域を知り活動を通じて、地域への愛着を(ま)ぐ(ら)む。

(B) グループメンバー (菊野, 廣田, 有村, 吉岡, 先矢, 渡邊)

1 学習目的

子どもが楽しく、保護者が安心できる地域づくり

2 学習目標

- 子どもが地域を知る活動を通じて、住民同士に交流が生まれる。
- 子どもが地域を知る活動を通じて、地域への愛着を育くむ。

3 プログラム名

ぱれ,と市でまつまいもを作ろう!

4 対象・定員

小・中学校 (20~30名), 地元の小中学生限定

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

参加費無料、材料費を負担する (500円)

6 事前に必要な知識や準備物

各学校に周知, LINE, ボランティア(支援者)の募集 (団体, 一般)

帽子, タオル, 飲み物 持参

7 留意点

雨天順延 (別日設定)

長そで、長ズボン着用

(B) グループ

ナフまいも作り

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
第1回 (4月) 土・日 午前中 (3時間 程度)	いも作り 名人を知ろう!	◎ 目標 地域の人で知る体制づくり アイスブレイク (参加者間の交流) オリエンテーション (火田づくりのレクチャー)	地域住民 (地域団体・ 一般ボランティア)	公民館 近くの火田	観察
第2回 (5月)	いもを 植えよう!	◎ 火田づくり いもを植える 目標(火田づくり等を通じて、地域の人と 交流)	地域住民 (地域団体 一般ボランティア)	近くの火田	観察
第3回 (7月)	いもを 育てよう!	草取り、手入れ 水やり 目標(草取りを通じて、地域の人と交流) ・観察日記付けと世話の当番を決める	地域住民 (地域団体・ 一般ボランティア)	近くの火田	観察
第4回 9/12(±) 9-14:30	みんなで いもを 食べよう!	◎ 収穫(地域の皆で食べよう) 料理(はれっと汁(じゃいも汁)、いもはれ、 焼きいも) 振り返り 目標(保護者も含め、地域の人と 交流する)	地域住民 (地域団体・ 一般ボランティア)	公民館 近くの火田	アンケート

日
前
中
時
間
程
度

※ 1~3回目は、子どものみの参加、4回目は保護者も参加可能。

【各回の実施計画を立ててみよう！】

(B) グループ メンバー (菊野, 廣目, 有村, 吉岡, 先矢, 渡邊)

1 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

みんなでいもを食べよう！

○学習目標

保護者も含め、地域の人と交流する。

2 回・日時・場所

○回・日時

第 4 回

9月12日(土) 9時 30分~ 14時 30分

○場所

公民館近くの畑、公民館(調理室、会議室)

3 講師、指導者、支援者

地域住民(地域団体、一般ボランティア)

4 準備物

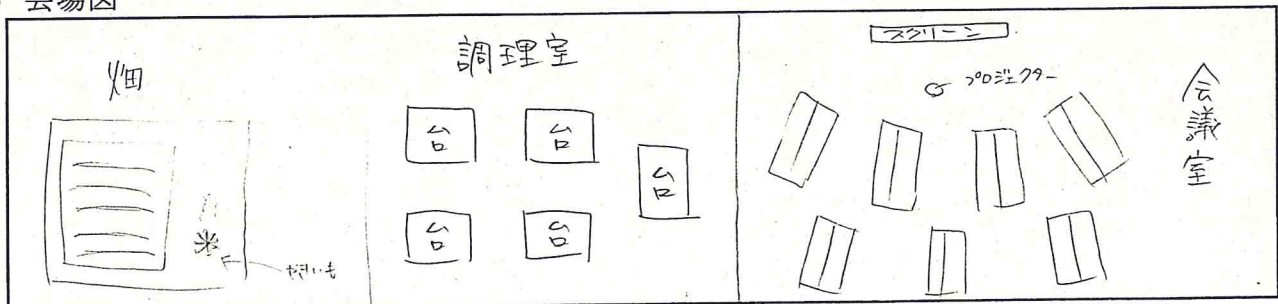
○参加者

帽子, タオル, 飲み物, 軍手, 長そで, 長ズボン, 長靴, 米1合(スコップ), 袋, エプロン, 着替え

○主催者

調味料, 玉ねぎ, 人参, 豚肉, 炭, 石, 網, アルミホイル, アンケート用紙, 救急箱, カメラ, 名札, プロジェクター, スクリーン, PC

5 会場図



6 実施計画

時刻	内容	留意点
8:30	スタッフ集合	各種準備
9:00	受付開始	
9:30	名人からの挨拶 収穫の説明	(スタッフは 焼きいもの準備)
9:40	収穫開始	土を落として、手を洗う!!
10:30	記念撮影 (終了後、調理室へ移動)	
10:45	調理説明	
12:10	完成 (和室へ移動)	
12:15	食事開始「いただきます」 (第1回～第3回の様子をスライドショーで流す)	
13:15	食事終了「ごちそうまでした」 片付け開始	
13:45	振り返り (アンケート記入、感想を聞く)	
14:30	解散	
		※後日、CD-ROM配布 (写真の入ったもの)
		※余ったジャガイモは、みんなに分ける。

学習プログラム開発をしよう

(C) グループメンバー (辰川、朝邊、金光、山本、赤利、岸野)

テーマ 青少年教育

市の概要

C

個人の要望

- ・地域での居場所づくり
- ・祭りなど地域の方と解れ合えるイベント
- ・家庭や学校では体験できない活動
- ・ふるさとを知る
- ・知識を身につける
- ・交流

社会の要請

- ・青少年自身の育成
- ・青少年を取り巻く環境

地域課題

地域と青少年が「つながる」(交流の)場所や機会がない。

学習目的

地元住民と青少年の交流により、地域を愛する心を養い、社会性のある人材を育てる。

学習目標

- ・交流する場を作ることによって、青少年が地元住民とあいさつするなど「コミュニケーション」が取れるようになる
- ・青少年が地域の一員であることを自覚するようになる。

(C) グループ メンバー (辰川, 朝邊, 金光, 山本, 赤利, 岸野)

1 学習目的

青少年が地元住民との交流を通して、社会性を養い、地域を愛する心を育む。

2 学習目標

- ① 青少年と地域住民が交流する場をつくることで、あいさつ等のコミュニケーションをとれるようになる。
- ② 青少年が地元の名産を知ることを通して、地域への興味・関心を高める。

3 プログラム名

そばは 輪っしょい ～ 知って、打って、広めていこう～

4 対象・定員

小学4年生～中学3年生 20名

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

1,000円 (材料費800円, 保険料100円, 資料代等100円)

6 事前に必要な知識や準備物

そば材料, 調理道具, パワ-ポイント, そば打ちグッズしおり(レジメ),
エプロン, 三角きん, マスク

7 留意点

班わけ(学年間の交流) 中学生への意識づけ, けがをしないように安全面への配慮

(C) グループ

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
第1回 10/11(日) 10:00- 13:00	知ろうや! 白そば	◎ 白そばのこゝろを知り、サポートしてくれる地域の方々と顔と名前を覚えよう。 グループのみんなの [講義] ① 学習目標の確認・自己紹介(10:00~) ② 白そばの歴史を知る。(10:10~) ③ 石臼の体験(10:30~) ④ そば打ち名人の技を見る。(11:00~) ⑤ 試食・感想発表・アンケート(12:00~) ⑥ 次回の連絡(~13:00)	そば打ち名人 女性会の皆さん 男性料理グループの方	ほろと公民館 実習室	アンケート
第2回 10/18(日) 10:00- 13:00	打ちや! 白そば	◎ みんなで協力して、白そば打てるようになる。 (10:00~) ① 学習目標の確認・前回のおさらい ② 実技(そば打ちの練習)(10:15~) ③ 試食・片付け 手取り本番の役割分担(しおり記入) (12:00~) ④ 感想発表 (~13:00)	同上	ほろと公民館 実習室	アンケート
第3回 10/25(日) 10:00- 13:30	深めようや! 白そば	◎ 白そば打ちの技を深めて、地域のおいちゃんおばあちゃんとの交流を深めよう。 ① 学習目標の確認 ② 実技(そば打ちの練習) ③ 配膳・交流しながら食事 研修室へ (自己紹介 107-ポイント 今日までの活動紹介) ④ 感想発表 写真撮影(写真しおり記入) ⑤ 片付け・アンケート記入	同上	ほろと公民館 実習室 研修室	アンケート
第4回 11/3(祝) 9:00- 15:00	ためようや! 白そば	◎ たくさんの人に地元名産の白そばをためよう。 ① 準備 学習目標の確認(9:00-) 役割分担の確認 つくりおきのそばづくり(9:30-) ② 11:00- 試食 配布 石臼体験 そば打ち ? ? ? 泉源コーナー ? ? ? 13:00 14:00 13:00	同上	ほろと公民館 実習室 おた 販売ブース	アンケート

③ 14:00 - 片付け、お礼状
④ 14:00 - 片付け、お礼状

【各回の実施計画を立ててみよう！】

(C) グループ メンバー (辰川, 朝邊, 金光, 山本, 赤利, 岸野)

1 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

深めよう！ 白そば

○学習目標

白そば打ちの技を深めて、地域のおじいちゃんおばあちゃんとの交流を深めよう。

2 回・日時・場所

○回・日時

第 3 回

10月 25日 (月)

10時 00 分～

13時 30分

○場所

ほれっと公民館 実習室

3 講師, 指導者, 支援者

講師: そば打ち名人

支援者: 女性会の皆さん, 男性料理教室のグループの方

4 準備物

○参加者

E70ロン, 三角巾, マスク, しおり

○主催者

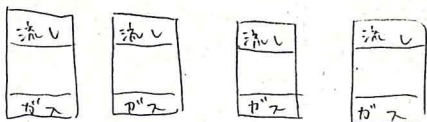
そば材料 (そば粉, 強力粉, 水, ねり, つゆ), アンケート, カメラ, 筆記用具, 看板

そば打ちセット, 調理器具, 食器

パソコン, プロジェクター, スクリーン, 白そばや活動を紹介するデータ

5 会場図

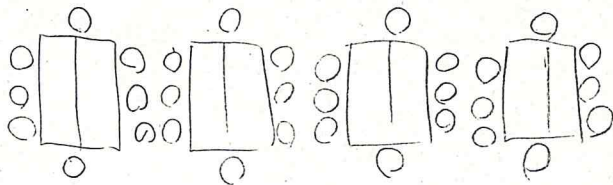
< 実習室 >



そば打ち名人

入口

< 研修室 >



スクリーン

6 実施計画

時刻	内容	留意点
10:00	<ul style="list-style-type: none"> 受付 学習目標の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 案内看板, 机, 名簿 受付, 学習目標の確認 職員(1名)
10:05	<ul style="list-style-type: none"> 東枝(そば打ちの練習) <p>名人のアドバイスを受けながら, 自分たちで, そばを打つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ケガがないようにする。
11:30	<ul style="list-style-type: none"> おじいちゃん・おばあちゃん 受付開始 実習室の様子を見てから, 研修室へ移動 子どもたちへ 研修室の西膳へ (そば&そば湯) 	<ul style="list-style-type: none"> 案内板, 机, 名簿 (職員1名対応)
11:45	<p>「いただきます」</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流しながら 食事 (自己紹介) 第1, 2回の活動をスライドで紹介 	<p>10Vコネ, フォジリクター, スクリーン</p> <p>スライド操作(職員1名)</p>
12:30	<p>「ごちそうさまでした」</p> <ul style="list-style-type: none"> おじいちゃん・おばあちゃんへ 子どもたちが感想をインタビュー - する 記念撮影(後日, しおりに貼る) 	<ul style="list-style-type: none"> マイク カメラ撮影(職員1名)
12:45	<p>片付け</p> <p>おじいちゃんおばあちゃんへ 解散。</p>	
13:15	<p>アンケート記入</p> <p>次回の確認</p> <p>(必要なことは, しおりに記入する)</p>	<p>筆記用具・アンケート用紙</p>
13:30	<p>子どもたち 解散</p>	

学習プログラム開発をしよう

(D) グループ メンバー (立道, 上本, 大塚, 岡野, 古玉)

テーマ

家庭教育支援

市の概要

B

個人の要望

- ・相談
- ・結びつき
- ・支援

社会の要請

- ・場所づくり
- ・結びつき
- ・リーダー養成
- ・魅力づくり
- ・施策

地域課題

相談できる関係, 住民同士の結びつきをつくる機会や場所づくりが必要である。

学習目的

住民同士が相談できる関係になることで、ネットワークを形成し、地域の活性化を図る。

学習目標

地域を知るイベントを通して、親子と旧住民の交流を図る。

Dグループ メンバー (岡野・大塚・上本・立道、支援者 古玉)

1 学習目的

住民同士が相談できる関係、住民同士の結びつきをつくる機会や場所づくりが必要

2 学習目標

子育て世代の交流を図る。

地域を知り、住民としての自覚を養う。

3 プログラム名

ぱれっと子育て塾～あなたの子育ての悩みを解決します～

4 対象・定員

対象：子育て世代（3から6歳の子供がいる）のお父さん、お母さん

定員：20名

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

600円 (お茶代 100円 材料費 500円)

6 事前に必要な知識や準備物

毎 回 名札 名簿 受付の机

第1回 資料 パソコン プロジェクター 飲み物 (お茶 コーヒー) 茶菓子

第2回 資料

第3回 はし お盆 お椀 資料

第4回 食材 エプロン 三角巾 マスク 資料

7 留意点

毎回、託児場所が必要→託児ボランティアの方が必要 (3名程度、女性会)

Dグループ

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標(◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
第1回 9月13日(日) 10:00 ～ 12:00	子育ての悩みを話し合おう!	◎親同士の交流を図る。 [講義] ① オリエンテーション(10分) ② ファシリテーターの方の話を聞く(40分) ③ 休憩(10分) ④ お茶会(意見交換会)(60分)	地域の ファシリテーター(5名)	ばれっと市 中央公民館	アンケート
第2回 9月27日(日) 10:00 ～ 12:00	読み聞かせを学ぼう!	◎本に親しみ、親子のコミュニケーションの 方法を身に付ける。 [ワークショップ] ① オリエンテーション(10分) ② 読み聞かせの目的・方法・実践(40分) ③ 休憩(10分) ④ 親子で読み聞かせ(60分)	ばれっと市 読み聞かせ ボランティア (5名) 図書館職員	ばれっと市 中央図書館	アンケート
第3回 10月11日(日) 10:00 ～ 12:00	正しいマナーを学ぼう!	◎正しいマナーを学び、家庭でのコミュニケ ーションのきっかけづくりをする。 [ワークショップ] ① オリエンテーション(10分) ② マナー講座(食事の仕方等)(40分) ③ 休憩(10分) ④ 親子で実践(60分) (豆などを用いて競争など)	ばれっと市 女性会(5名)	ばれっと市 中央公民館	アンケート
第4回 10月25日(日) 10:00 ～ 15:00	郷土料理を作ろう!	◎料理教室、食事会を通して親同士、地域 の方との交流を図り、地域に愛着を持つ。 ① オリエンテーション(10分) ② 調理(郷土料理)(120分) ③ 食事(90分) ④ 片付け(40分) ⑤ 振り返り(40分)	講師 女性会(5名) 招待 第1回から第3回まで の講師他	ばれっと市 中央公民館 調理室 第1研修室	インタビュー アンケート

Dグループ メンバー (岡野・大塚・上本・立道、支援者 古玉)

1 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

郷土料理を作ろう！

○学習目標

料理教室、食事会を通して親同士、地域の方との交流を図り、地域に愛着を持つ。

2 回・日時・場所

○回・日時

第4回 10月25日(日) 10時00分 ~ 15時00分 (受付開始 9:30~)

○場所

ぱれっと市中央公民館

(調理室、第1研修室、児童室(託児))

3 講師、指導者、支援者

女性会の方々8名(料理指導5名、託児ボランティア3名)

招待 地域のファシリテーター5名、読み聞かせボランティア5名

4 準備物

○参加者 予定人数(大人20名、子ども20名)

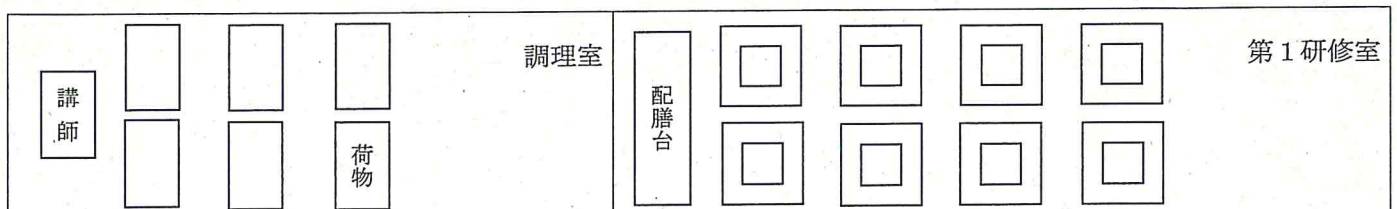
エプロン、三角巾、マスク、お椀、箸、飲み物、タオル

○主催者

名簿、名札、資料、筆記用具、アンケート用紙、調理器具、ゴミ袋

ぱれっと鍋の食材(にんじん、大根、こんにゃく、みそ、猪肉など)

5 会場図



Dグループ

6 実施計画

時刻	内容	留意点
前日までの 準備	食材、調理器具の準備	女性会と打ち合わせ (当日の流れ) 参加者を4人ずつの5グループに分ける
9:00	講師・託児ボランティア到着	調理室、児童室、第1研修室のカギを開ける 案内板を入口に設置 受付場所を準備 (長机、名簿、名札を用意)
9:30	受付開始 (職員対応) 場所: 調理室入り口	お金は第1回に徴収済 託児は児童室へ案内する
10:00	オリエンテーション 場所: 調理室	職員が本日の流れを説明 (資料確認)
10:10	調理開始 ぱれっと鍋 (猪鍋)、おにぎり 出来上がり次第 第1研修室へ運ぶ	職員は会場準備 (計64席・出席者58名) テーブルは8つ、イスはテーブルにつき8脚 荷物は調理室に置き、カギをかけておく
12:00	地域の方、第1～3回の講師の方が到着・案内 ～配膳～ ～食事開始～	地域の方は1テーブルに1～2名程度
13:30	片付け開始 (40分)	調理室のカギを開ける
14:10	振り返り ～女性会の方の挨拶～ 場所: 調理室	インタビュー・アンケートを行う
15:00	解散	

学習プログラム開発をしよう

(E) グループ メンバー (新見, 福島, 増原, 荻田, 奥村)

テーマ **家庭教育支援**

市の概要
B

個人の要望

- ・子育て中の悩みや不安の相談 (相談)
 - ・子供の世代に合わせた遊び(遊び)
 - ・親のいきぬき (リフレッシュ)
 - ・絵本の読み聞かせ (学び)
 - ・親子で参加の離れている兄弟も可 (子育て講座)
- ネット
イ
ク
ス
リ
(絆)

社会の要請

- 地域のつながり 世代間の交流 (絆)
- 子供の遊び体験の減少 (体験学習)
- 父親も子育てに関心 (イクメン)
- 子育ての不安や悩みを相談 (相談)
- 子供の生きる力をしっかりと育まれるまち (自尊心)

地域課題

共働き家庭が多く、親同士の交流や地域とのつながりが
うすいため、子育てにおいて孤立化している。

学習目的

- 地域の絆が深まり、地域で子供を育てる気運が醸成される。
- 生きる力を育む、自尊心を育てる。

学習目標

イベントを通じ、世代間交流をすることによって、地域の絆が
深まり、世代間交流の楽しさと郷土愛を実感する。

【学習プログラムを開発しよう!】

(E) グループ メンバー (新見, 福島, 増原, 刈田, 奥村)

1 学習目的

- 地域の絆が深まり、地域で子供を育てる気運が醸成される。(少しおっぴたり。高まる。)
- 生きる力を有む、自尊心を育てる。

2 学習目標

イベントを通して、世代間交流をすることによって、地域の絆が深まり、世代間の楽しさと郷土愛を実感する。

3 プログラム名

地域の名人を矢張り ~ 地域のネットワークづくり ~

4 対象・定員

- 親子 40組
 未就学児とお兄ちゃん、お姉ちゃん(小学3年生)

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

茶活会費用 + 保険 600円(二組) 申し込み時点で徴収
 (第2回目, 3回目) (レクリエーション)

6 事前に必要な知識や準備物

<ul style="list-style-type: none"> ◦ おみやげづくり ◦ 企業との協賛 (事前に登同し、揃えらる。) ※ PTA・自治会と前に調整あり 	<p>参加者持参物 エプロン、三角さん、ふきん ちり紙タオル</p>
---	--

7 留意点

公民館だよ、HP で広報 申し込みは公民館

- 保険加入 ◦ ボランティアの募集を行う

(E) グループ

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
5/ 第4 (土)	「ふれ合い」 昔遊び名人 と遊ぼう~ 10:00~11:30	◎ 昔遊びをすることによって 三世代のふれあいを深める (内容) けん玉, お手玉, ゴム跳び まりつき, などの昔遊びをして 交流を深める。 ※ スタンプラリーをやる(クルーワーク)	地域の ボランティア (見守り隊など) 3回を通して 目的 ○ おじいちゃん おばあちゃん (生きがいを) ○ 親にとりては (地域のネット ワーク化) ○ 地域に頼りにする人	ハレット 公民館 (26人)	インタビュー 行動視察
6/ 第2 (土)	「学び」 茶の湯の名人 から学ぼう~ 10:00~11:30	◎ 茶の湯の体験を通して 礼儀作法を学ぶ (内容) 地域の文化 ^{歴史} , 礼儀作法 (ハレット宗簡流) ^{しつけ} ○ 資料付き お家でむすびアレンジ ○ お茶菓子もハレットのお菓子 ○ 地域の人への尊敬の念を学ぶ	地域の ボランティア (10人)	ハレット 公民館	インタビュー
6/ 第4 (土)	「食育」 お菓子づくり名人 と食べよう~ 10:00~12:00	◎ 親子が食べたいような 郷土の 簡単おやつを作って、意見交換 をやる。(ワークショップ) 内容 { ○子供にも体験させる ○子育ての悩みと語り合う (まとめ) 修了式 (成果) ○ 地域の人ってすごいな ○ 地域の人って頼りに なる人がたくさんいるんだ ○ 地域ってすごいな を感じてもらえたが! ※修了証とともに、おもちゃと作り方、名人マップ をおみやげとして渡す。	地域のボランティア 第1日目, 第2日目に 関わった方 36人	ハレット 公民館	アンケート ↳ 引きかえに おみやげ

※ おみやげづくり

プログラムの打合せの時

○ 手作りおもちゃをつくる。

(その材料費について
消耗品費, 在庫でまかなう)

○ 名人マップを作成

事前登録済みのボランティアの
一覧を名人マップとして作成
配布することで地域との
つながりを継続させる

【各回の実施計画を立ててみよう!】

(E) グループ メンバー (新見・福島・増原・荻田・奥村)

1 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

お菓子づくり名人と食べよう

○学習目標

イベントを通して、世代間交流を促すことにより、地域の絆が深まり、世代間の楽しさと郷土愛を実感する。

2 回・日時・場所

○回・日時

第 回 6月 日(土) 10時 00分 ~ 12時 00分

○場所

119レット公民館 ホール 調理室 (前日準備)

3 講師、指導者、支援者

地域の名人

4 準備物

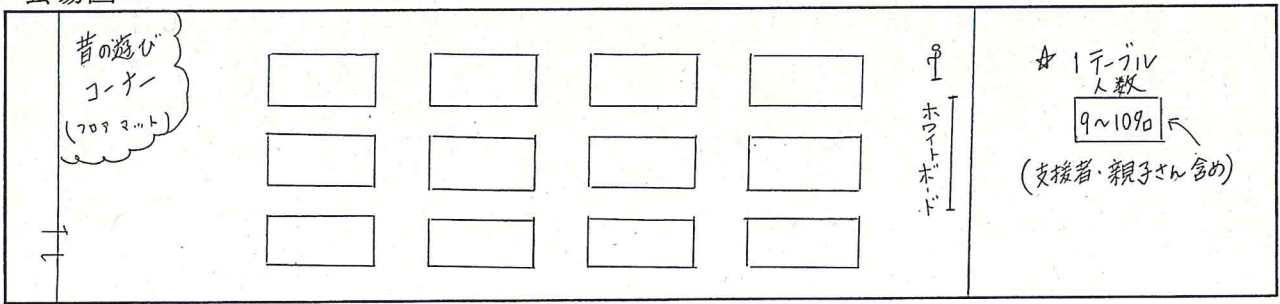
○参加者

親子36組 (未就学児)

○主催者

119レット公民館 企業への協賛

5 会場図



6 実施計画

時刻	内容	留意点
前日	下準備 (調理室) ソース作り	地域のソース作り名人
当日 9:30	ホール準備 (テーブル、昔あそびコーナー フロアマット準備) 受付 (会議室)	(地域の食材を用いて) 案内板長机 (1) 受付名簿 受付職員 (2名) (事前にグループ分け) 会議室を参加者荷物置き場とする 手を洗ってもらう (エプロンに着がえて)
10:00	オリエンテーション (ホール) ・講座の目的や目標、日程について説明。 ・地域の名人紹介、食材、ソースの紹介	司会説明職員 (1名)
10:10	おやつのおトッピング 食べる	
10:30	昔あそびコーナー準備 フリータイム (昔あそび名人と遊んでもよいし おしゃべりをする等自由な 時間とする)	支援者
11:30	修了式 地域の名人からお礼状 (まとめ) 修了証、おみやげを渡す	司会進行職員
11:50	アンケート記入 (趣意、保護者)	

事前準備として 申し込み時に参加者へアンケートをしておく (どんな悩みがあるかな)

アンケートを基にグループ分けを行う。

支援者にもアンケート結果を事前に伝える。グループに入ってもらいフリータイム時に相談のてもらう。

学習プログラム開発をしよう

(F) グループ メンバー (坪井、坂谷、升本、竹森、佐藤、杉原)

テーマ 高齢者教育

市の概要

B

個人の要望

- ・交流
- ・きっかけづくり
- ・健康維持
- ・情報収集

社会の要請

- ・交流
- ・地域支援
- ・場所提供
- ・生きがいづくり
- ・情報提供

地域課題

情報の発信、収集をするネットワークづくりができていない。

学習目的

- ・住民同士の開かれたネットワークづくりをすることにより、言わずもがら気軽に参加しやすく活気のある地域を形成する。

学習目標

- ・地域での活躍力を知ることにより、外へ出かけるきっかけづくりをし、参加意欲を高める。
- ・地域で高齢者が何でも話せる集い(居場所づくり)を開くことで、集いで知り合った人と互いに相談でき問題を抱えず解決することができる。

【学習プログラムを開発しよう！】

(F) グループ メンバー (坪井、升本、竹森、佐藤、坂谷、杉原(支援者))

1 学習目的

住民同士の開かれたネットワークづくりをすることによって、だれでも気軽に参加しやすい
活気あるネットワークを創り出す。

2 学習目標

- ・地域の活動を知ることにより、外へ出かけるモチベーションを高め、参加意欲を高める。
- ・地域で高齢者が何でも話せる集い(居場所づくり)を開くことで、互いに集いで知り合った人と参加でき、問題を抱えず解決することができる。

3 プログラム名

We ♥ パレット 〜 郷土再発見 〜

4 対象・定員

対象：シルバー世代

定員：20名

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

1,000円 (野菜、料理づくりなどの材料費 1回目で集める)

6 事前に必要な知識や準備物

- ・野菜づくりに必要な資料、道具 (プランターなど) ・料理レシピ
- ・銀紙マップづくりに必要なもの (筆記用具、カメラなど) ・救急箱

7 留意点

- ・安全面の配慮 (けがなど) ・少雨決行 (第1回はテント、ブルーシートなど準備) ・採った野菜は参加者が相談して分ける。
- ・水分補給の声かけ ・募集は公民館より、HPで行う。 ・野菜づくりは班で担当を分けて水やり、草取りをする。

(F)グループ

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
第1回 4月 第3土曜日	郷土野菜を 育てよう ～プランターでできる 家庭菜園～	◎ 野菜づくりを通して、外へ出るきっかけづくりをする。 ・4グループに分ける ・郷土野菜の育て方を学ぶ ・4種類の郷土野菜を育てる	地域の農家	公民館	アンケート ・目視で確認
第2回 6月 第3土曜日	郷土料理を 満喫 ～パレット市を 食べよう～	◎ 郷土料理を学び調理実習を通して参加者同士の交流を深める。 ・郷土料理づくり ・試食をしながら郷土について学ぶ	地域の農家	公民館 調理実習室	アンケート ・目視で確認
第3回 7月 第3土曜日	我が家の 野菜自慢 ～野菜講評会～	◎ これまでを振り返り、9月に行うマップづくりの準備をする。 ・採れた野菜の自慢、講評会を行う	地域の農家	公民館	アンケート ・目視で確認
第4回 9月 第3土曜日	郷土とこれとれ マップをりくろう ～あの達人に聞く～	◎ 郷土で穫れる野菜がどこでつくられているかを知り、新旧住民を交じり情報交換し、郷土を深める。 ・フィールドワーク ・情報交換 ・マップづくり	マップづくり アドバイザー 地域の農家	パレット地区 公民館	アンケート ・目視で確認

【各回の実施計画を立ててみよう！】

(F) グループ メンバー (坪井、升本、竹森、佐藤、坂谷、杉原(支援者))

1. 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

郷土とこれこれマップをつくらう ~ 本の達人に聞く ~

○学習目標

郷土で作られている野菜がどこでどこで採られているかを知り、新旧住民を交えて、情報交換し、郷土愛を深める

2. 回・日時・場所

○回・日時

第 4 回

9月19日(土)

9時 00分 ~

11時 30分

○場所

公民館 → 1101地区

3. 講師、指導者、支援者

- ・地域の農家
- ・マップづくりアドバイザー

4. 準備物

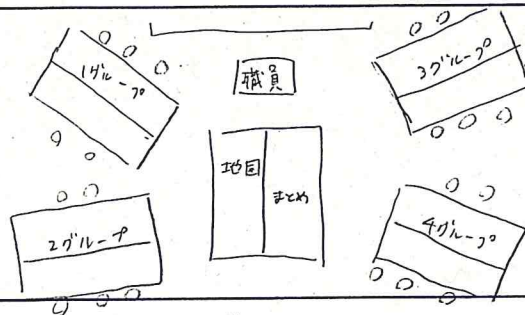
○参加者

- ・飲み物
- ・タオル
- ・帽子
- ・カバン
- ・動きやすい服装
- ・運動靴
- ・筆記用具
- ・携帯電話

○主催者

- ・飲み物
- ・ICT用パソコン
- ・文具 (ポストイット、マーカー、もろごし等)

5. 会場図



6 実施計画

時刻	内容	留意点
9:00~	受付 (研修室前) 〈オリエンテーション〉 ・今日の動きを確認 ・資料配布	・受付 (職員1名) 長机 (1), 受付名簿 ・司会, 説明 (職員1名) ・職員と班のリーダーが連絡が とれるようにしておく
9:30~	〈準備運動〉 公民館玄関前 ・ラジオ体操 (ご当地年ラジオ体操)	・CDデッキ (1) 延長コード (1)
9:45~	〈フィールドワーク〉 ・班ごとにいく地域を決める。 ・農家に取材し、写真をとる。	・事前に農家に取材許可を とっておく。 ・水分補給に気を付けてもらう。
10:45~	〈マップづくり〉 (班ごとに整理→まとめ) ・グループで担当した地域の 情報をふせんで貼っつけたものを あわせて、地区のマップとし、 重複した情報を省きマップを 作成する。	・情報・留意点をポストイットに 書いて貼っておく。(地図に) ・写真データも班ごとに ピックアップし、公民館で コピーを引きとる。 (ICTパソコン使用)
11:25~	ふりかえり	・今後の活動につながるような ことを述べる。
11:30	閉会	

学習プログラム開発をしよう

(G) グループメンバー (仲田・能美・日信・橋本・田宮)

テーマ 高齢者教育

市の概要
C

個人の要望

- ・暮らし
- ・情報
- ・基礎
- ・コミュニケーション
- ・学び

社会の要請

- ・地域参画
- ・健康づくり
- ・情報
- ・空き家対策
- ・暮らし

地域課題

地域間のつながりが希薄であるので、
コミュニケーション
ネットワークの充実

学習目的

地域の活性化を図る。

学習目標

- ・高齢者が地域に出ていく事で、地域の一員としての自信をもつ
- ・世代間交流を促す事により、高齢者が生きがいをもって楽しく過ごせる事が出来るようにする。

(G) グループメンバー (田宮・橋本・仲田・能美・日信)

1. 学習目的

地域の活性化を図る

2. 学習目標

高齢者が地域に出ていく事で地域の一員としての自信をもつ
世代間交流をある事により、高齢者が生きがいをもって楽しく過ごせる事
出来るようになる

3. プログラム名

竹物語 ～ 穫・作・遊 ～

4. 対象・定員

どなたでも (子どもから大人まで) 小学生以上、1,2年生は保護者同伴
大人の方はボランティアでの参加可 親子 10組 30名程度

5. 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

1回目 100円 (保険代) 3回目 800円 (材料費・保険代含)
2回目 100円 (")

6. 事前に必要な知識や準備物

救急箱・周辺地図 (竹取用) のぼり紙 名札・カメラ
アンケート紙等 (お礼用) 紙テープ

7. 留意点

- 安全面の配慮
- 高齢者、子どもに合わせた時間配分
- 高齢者スタッフは事前に準備
- 1回目は雨天順延

(G) グループ

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
1回目 4/未(土) 9:30 ~12:00	"竹 ^{ヒリ} 穫 ^{モノ} 物語"	◎ 世代間交流を図る ・竹の子土居り (竹の自然学習) ・竹林散策 ・収穫した竹の子は土産とする	老人クラブ 地域自然 ガイド 竹林所有者	地域周辺 竹林	アンケート 地域の自然の 魅力を発見できたか 新しい交流が はかれたか
2回目 7/1(土) 10:00 ~12:00	"竹 ^{ツクリ} 作 ^{モノ} 物語"	◎ 高齢者が地域の一員としての 自信を持つ ・ぞうめん流し用の器と著作) ・ぞうめん流しの竹準備 製作した器等は、公民館で預る	地域住民	公民館の 駐車場	アンケート 支援者技術の 継承 参加者 物作りの楽しさ 新しい交流が はかれたか
3回目 7/25(土) 10:00 ~13:00	"竹 ^{アソビ} 遊 ^{モノ} 物語"	◎ 世代間交流をはかる ・竹とんぼ、水鉄砲作り ・ぞうめん流し 伝承あそび工作を通じて 子供達と交流を図る	地域住民 老人クラブ 女性会 子ども会	公民館の 駐車場	アンケート 支援者 技術の継承 新しい交流が はかれたか 前向きに参加 する意識が持てたか

【各回の実施計画を立ててみよう!】

(4) グループ メンバー (田宮・橋本・仲田・能美・日信)

1 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

「竹遊物語」

○学習目標

世代間交流を図る
伝承遊び工作を通じて子供達と交流を図る

2 回・日時・場所

○回・日時

第 3 回 7 月 25 日 (土) 10 時 00 分 ~ 13 時 00 分

○場所

公民館 駐車場

3 講師、指導者、支援者

老人クラブ・女性会・子ども会

4 準備物

○参加者

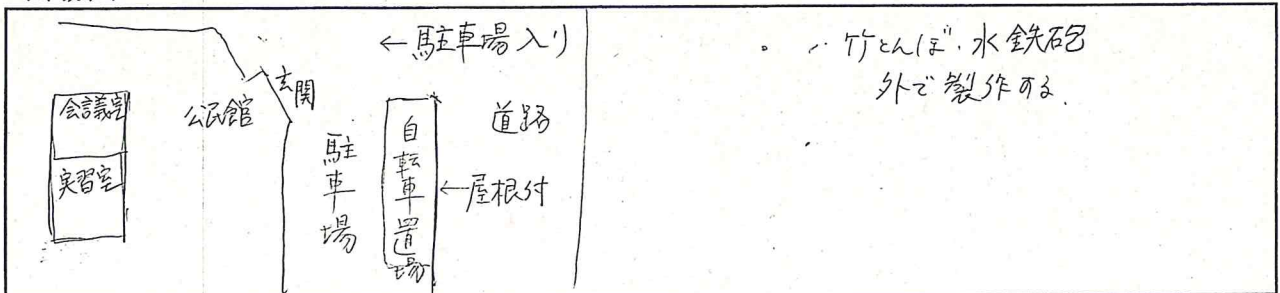
- ・参加費 800円 (材料代・小刀代 含む)
- ・飲み物・タオル・着替え・帽子

○主催者

- ・知札・カメラ・アポット・スポンジ・食材 (人数分) さつまいも・芋・やくし
- ・救急箱・小刀・やちい・ゴミ袋・机・椅子・机・のこぎり・はさみ・釘糸・手ぬぐい
マジック各色、バケツ

作り古した秋
祭りをのび

5 会場図



6 実施計画

時刻	内容	留意点
9:00	ミーティング準備	・準備物の移動セッティング
9:30	受付 (公民館 入口)	・名簿・案内板・長机・名札 職員1名 配置
10:00	オリエンテーション ・本日の内容説明(スケジュール含) ・役割分担	・司会1名(職員) 作り方のしおりを配り 適宜、水分補給時の休憩を入れる
10:10	竹とんぼ、水鉄砲 製作 ・そうめん準備 ・出来上がったら <u>遊んでみよう!!</u>	・竹とんぼ、水鉄砲 製作指導者10人 ・2回目の時に加工した「竹」一式 ・小刀等 道具一式 (扱.方.を大人から学ぶ) ・そうめん作成スタッフ 5人(女性会) そうめん人数分・調理道具一式 ・食材・食器人数分 運搬する人は手前のスタッフで!!
12:00	そうめん流しスタート!!	
12:30	そうめん流し終了後 アンケート記入と片付け 片付けは皆んたお協力しよう	・アンケート えんぴつ 人数分 ・アンケート回収箱 1個 ・えんぴつ入れ 1個
12:55	※ 製作した竹細工は持ち帰り 終わりのあいさつ × 小刀の持ち帰り ...	
13:00	解散	